

鍛金部三年 高田 六藏  
同 芳武 茂介

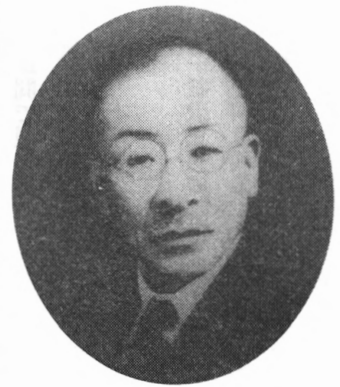
兼修できるのは二、三年生のみで、このとき、実技点数が八十点以下だったため不許可となった者が八名あった。「至昭和八年四月」工芸科実技兼修ニ関スル書類、版画兼修、セメント美術兼修ニ関スル書類（教務）によれば、翌九年は十三名、十年は十五名、十一年は十三名と兼修者が多かったが、十二年は八名、十三年と十四年が各四名、十五年が五名、十六年が三名と減っている。

### ③ 特待生制度廃止

各年度ごとに成績優等者を選んで一年間授業料を免除する特待生制度は明治二十六年以降毎年（同三十二年以外）実施され、明治から大正中期までは毎年大体二十名以内、大正中期以降は毎年二、三十名が選ばれて右の特典を与えられたが、和田校長の改革によりこの制度が廃止された。

### ④ 水谷鉄也の退官

昭和八年三月三十一日、彫刻科教授水谷鉄也が退官した。水谷については本書第二巻伍頁において「水谷鉄也の留学」として触れておいたが、留学より帰国後の略歴を記せば、大正七年四月教授に昇格した彼は彫刻科実習授業を指導する傍ら本校の依頼製作（銅像）を担当し、同十年までは図画師範科の手工（塑造、木彫）授業を兼任、同年から彫刻科実習担任を免ぜられ、工芸部および図画師範科



水谷鉄也（水谷茂氏提供）

の彫刻授業担任をつとめた。

水谷は朝倉文夫、建畠大夢、北村西望らの先輩で、文展に幾度か出品したが、朝倉らが官展で華々しく活躍したのとは異なり、非常に地味な制作活動を続けた。その一生に多くの銅像、建築装飾、木彫、花瓶等の制作を手がけている（「私ノ小歴ト作品」水谷鉄也。昭和十四年頃作成。水谷茂氏提供）。また、彫刻の基礎教育に大変尽力した。しかし、その作品の多くは散佚し、昭和十八年六月歿後旧宅が空襲で焼失したため、遺品も少なく、今日、その業績を辿るのは困難である。そこで、参考のために本学所蔵の水谷関係資料をここに紹介しておく。

#### (一) 本学芸術資料館所蔵作品

スペインの舞子（大正三年、東京大正博覧会出品）、婦人頭（同、同）、投網の男（同九年）、海老（同十五年）、女の首、うたたね女、ねむり、裸婦胸像。

#### (二) 文書

- 。東京美術学校旧職員履歴書
- 。留学関係文書（至大正十四年留學生ニ関スル書類（庶務））
- 文部大臣宛申報書〔控〕
- 一、從明治四十四年一月廿六日報告書、「焼土 Terre Cuite」至明治四十四年四月 廿日